

2022年3月22日

## 第9回エクセレントNPO大賞 「課題解決力賞」講評

### 1. 審査の視点

課題解決力賞は、まず評価項目に定める6項目の課題解決力の評点を審査しました。すなわち、団体か解決しようとしている課題を明確に理解し、説明できているか、また課題の背景にある法制度や慣習など社会の仕組みの問題をも視野に入れているかを評価します。さらに事業によってどのような社会への影響や変化をもたらすことができたか（アウトカム目標）、その成果をデータなどで具体的に説明できているかも審査いたしました。これに加えて、他の賞と同様に他の評価項目（「市民性」や「組織力」）の評点が極端に低くないかどうか加味しました。

### 2. 審査結果

#### (1) ノミネート団体

「課題解決力賞」にご応募いただいた団体の中から、今回、次の5団体がノミネートされました。初めての応募の団体もありますが、複数回応募されていて、6回目という団体もありました。

#### ① 「ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO」

「ア・ドリーム・ア・デイ・IN TOKYO」は、難病児の夢の実現とご家族の楽しい思い出作りを支援する公益社団法人です。昨年に続き2回目の応募でした。コロナ禍の影響で、外出や旅行を望んでいない病児や家族も多いことから、在宅で遊べる工作キットを贈る事業を始めるなど、病児や家族が少しでも楽しい時間を過ごせるよう色々と工夫されています。また、アウトカム目標について、短期的アウトカム目標と中長期のアウトカム目標に分けて記述されていることも評価されました。

#### ② 「とりで」

今回が4回目の応募となった「とりで」は子どもの虐待の予防と保護を目指した地域支援活動を山口県岩国市で行っている団体です。2016年3月に設立された比較的新しい団体ですが、リーダーの明確なビジョンの下、着実に組織を発展させていることが伺えます。市内で団体に関わることができている子どもの割合をきちんと認識し、その中で団体として関わることができている子どもたちの状況を丁寧にかつ具体的に

把握しています。課題（子どもの虐待）の発生の要因を分析し、多様なアプローチで解決を目指そうとしている点などが評価されました。

### ③ 「にじいろクレヨン」

「にじいろクレヨン」は、東日本大震災直後、被災地児童支援としての子どもの居場所、遊び場作りの活動から立ち上がりました。震災から10年以上が経過し、復興支援が収束に向かう一方で、地域のつながりの希薄化など新たな課題も出てきており、子どもだけでなく大人も含めた地域住民が安心安全に過ごすことができる地域の創造を目指して活動を継続しています。今回が6回目の応募となります。震災復興の進展とともに変化する地域の課題に的確に対応し、中長期的な視点を持って活動されている点が評価されました。

### ④ 「エンパワリング ブレストキャンサー」

「エンパワリング ブレストキャンサー」は、乳がん手術によって損なわれた心身のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）向上に関する情報を届けることを目的に設立された団体です。今回が初めての応募ですが、取り組んでいる課題について、データに基づいて具体的に把握し、しっかりと説明されていました。ただ、アウトカム目標の達成の状態について、指標とともにより具体的に設定されるとなお良かったと思います。

### ⑤ 「SALASUSU」

今回が初めての応募となった「SALASUSU」は、NPO法人かものはしプロジェクトのカンボジア事業が同団体からスピンアウトする形で立ち上げられた団体です。カンボジアの貧困層出身の女性の抱える課題の解決と、カンボジア全体の産業人材の育成に取り組んでいます。課題やその背景にある原因にもしっかりと目を向け、政府や他団体と協力しながら解決しようとしている点などが評価されました。また、目標や成果に対してしっかりと測定指標を作成し、一つ一つの活動の振り返りを丁寧に行っている点も評価されました。

## (2) 課題解決力賞

審査委員会で協議を重ねた結果、「課題解決力賞」には、「特定非営利活動法人とりで」への授賞が決定いたしました。今回のノミネート5団体の総合点は拮抗し、審査委員の間でも票が割れ、最も時間をかけて議論して授賞団体を決定しました。「とりで」は、子どもの虐待という表面に現れた事態への対応のみならず、様々な要素が絡みある虐待の発生要因に目を向け、予防的に介入するなど課題の解決に向け、予防と保護両面から地域に密着しながら多角的な支援を行っていることが特に高く評価され、授賞につながりました。

### 3. 今後に向けての課題

エクセレント NPO 大賞も 9 回目を迎え、多くの団体が、課題の把握とアウトカム目標達成に向けた取り組みを、よりの確に説得力を持って記述するようになってきたと感じています。相対的に応募数が多い賞なので、授賞に向けた競争も激しいですが、様々な団体が課題解決力を競い、互いに切磋琢磨することは、強い市民社会を作り出すために「エクセレント NPO をめざそう市民会議」が当初から目指してきたことです。コロナ禍の厳しい状況ですが、今後も高い課題解決力を持つ団体が増えていくことを期待しています。